

# 春死なむ

青塚美穂

【登場人物】

西澤孝太郎（78）無職

橋本健三（78）無職

若見理沙（17）高校生

大森直也（23）フリーター

女将（48）

マッサージ師  
ラッシュのフロントスタッフ

薬局の薬剤師  
TVAナウンサー

消防士  
医師

大藪克哉（46）医者

西澤幸子（故人）孝太郎の妻

橋本美乃（43）健三の娘

○草原  
ど・大きな桜の下（夢の中）

一本の大きな桜の木。  
桜は満開。  
満月の夜もたれて眠っている男・西澤  
孝太郎（18）。  
その幸せそうない寝顔。  
風が枝を揺らし、花びらが舞う。  
その中の一ぱが、孝太郎の頬に落ちる。  
目をつぶったまま、頬に右手を伸ばし、  
落ちた花びらをそっと摘む。

○西澤  
家・寝室（早朝）  
布団の上で目を覚ます孝太郎。

薄暗い室内。天井が見える。  
遮る光も天井の隙間から、白い光が漏れ、壁時計の秒針の音。  
孝太郎の右手は頬の上に。  
何かを摘んでいるようだ、手には何もなし。  
孝太郎、目を閉じる。  
孝太郎の望月のころ、  
起き上がった孝太郎がカーテンを開ける。  
庭に落ち葉が舞っている。

○同・居間（朝）  
納豆パック、ご飯、味噌汁だけの朝ごはん。

孝太郎  
一人、黙々と食べ始める。

○利根川  
T 川の土手  
野田市

赤や青の派手なウェアでジョギングする人々。犬の散歩をする女性の黄色いスカートが風でなびいている。そんな人々とすれ違いながら、灰色のトレジャーシューズに茶色のズボン姿の孝太郎が歩いている。曇天の空に同化しそうなほど、地味な孝太郎。鉛色の利根運河。冷たい風が吹き、孝太郎は思わず身震いする。トボトボと歩き出す孝太郎。

○ 大藪 小医院・全景

「寂れた個人病院。

孝太郎 「大藪の病院長の前には落ち葉が積もったまま。

○ 同・ 診察室

向かい合っている孝太郎と白衣姿の医師・大藪克哉(トヨ)。

神妙な顔でベスクのカルテとレントゲン写真を見比べる大藪。

孝太郎 「半年診察室の壁に掛けられたカレ

ンダに目やま十月。カレんだ、はい。

孝太郎 「死ぬでか？」

大孝太郎 「誠に残念で四月に？」

大藪 「言いに残念ですが大藪。」

大藪 「ちか。えつ。カ。言いに残念ですが大藪。」

独り言をいって、あ、違う違う。

くっ。は。言。い。つ。め。て。い。る。孝。太。郎。カレ。を。め。

大藪「ご家族の方、次第にほころんでいく。孝太郎、やった！」「なにか……」

孝太郎「孝太郎、勢い余って、ガッツポーズをつくる。」

大藪「大藪の手を両手で握る。」

孝太郎「何が？」「うございます！」

大藪「大藪、訳が分からずに茫然。」

大藪「孝太郎、感無量と、いった様子で目頭を揉んでいる。」

孝太郎「死にます。」

大藪「死にます。春に死にます！」

孝太郎「はあ？」「花のしたにて春死なむ」

大藪「大藪に、礼して、足取り軽く、診察室を出て行く孝太郎。顔の大藪。」

○利根川「川の土手は逆方向に歩いてくる孝太郎。」

厚い雲が去り、太陽の光が差す。川面に陽光が反射し、キラキラ光る。

スキップする勢いで足取り軽い孝太郎。すれ違う人々に笑顔で挨拶する。

孝太郎「早く足で歩いて暑くなった孝太郎が、灰色のトレーナーの下に着ていた白いシャツ」

孝太郎「姿で走り出す。」

孝太郎「春に死ぬぞ！」

○西澤家・全景  
瓦屋根の古い一軒家。

○ 同・和室 仏壇には五十代女性（孝太郎の妻・幸

子）の遺影。孝太郎、水と白米をお供えし、手を合

孝太郎 「わす。孝太郎、幸子、あと半年待ってくれ」

床の間に飾られた掛け軸には、「

願はくは花の下にて春死なむ

そのきさらぎの望月のころ 西行法師」

と書かれています。× × × 本棚や畳の上まで積み上げられた大

量の本。西行法師や和歌、平安時代に

どれも、書籍ばかり。孝太郎、座卓で日記を書きはじめる。

孝太郎 M「高校教師として、妻を見送って十五年

と三。孝太郎の視線の先には、『西行の心』と

いうタイトルの本だけが山のように置

かれていた。その背紙には、「著者…西澤孝太郎」

の文字。孝太郎、ペンを止めて庭を見つめる。

○ 同・庭

落ち葉が舞っている。その落ち葉が次第に雪に変わり、そし

○ T「半年後」

○ 桜の並木通り

ど風に舞う桜のほぼ葉桜になっている。

○ 西澤家・和室

積み上げられていた本や、本棚がすっかり  
 数冊の本と最低限の家具しかない室内。  
 日記を書いている孝太郎。  
 万年筆の進みが遅い。春には死ぬと言  
 った。「もう4月。医者も春には死ぬと言  
 ない？」「このままでは春が行って  
 う。春が。」  
 孝太郎、「ペンを止める。」  
 日記を閉じる。  
 × 押入れから旅行鞆を取り出す。  
 × その中に服や下着を詰める。  
 × 西行の『山家集』、自著『西行の心』、老  
 × 眼鏡も入れる。  
 × 最後に、仏壇に飾られた妻・幸子の遺  
 影を手取る。  
 × 優しく微笑む。遺影の中の幸子。  
 × じつと見つめて、鞆の中に仕舞う。  
 × 受話器を手取る。  
 × 一瞬、電話するかどうかためらうが、  
 × ボタンを押す。  
 × コール音がするが、相手は出ない。  
 × 留守電に切り替わるメッセージが流れ  
 る。  
 孝太郎、ホッと息を吐く。  
 孝太郎「（留守電に）私だ。ちよっと留守にす  
 る。」  
 孝太郎、「おこうと思っただけ。」  
 孝太郎、「黙って行ってしまったこと、すまない  
 と思って。最後までケンカしたくないんだ。  
 だが、そのときと反対されると思  
 った。」  
 孝太郎「最後の言葉を探している。」  
 孝太郎「。」

孝太郎「健三、ありがとう。さようなら」

○同・玄関

靴を履き、靴を持つ。

孝太郎「ドアノブに手をかけ、誰もいない家に一礼する。」

○桜の並木通り

旅行鞆を手に歩く孝太郎。

孝太郎「見上げた桜はすべて葉桜に。」

孝太郎「急ぎ足で歩き出す。その時、とっぜん車のクラクションが響く。

ギクツと足を止める孝太郎。そのまま振り返らずに歩き出す。

再びクラクションが鳴る。

孝太郎「振り返らない。すると、クラクションが三三七拍子のリズムで鳴り出す。」

孝太郎「三三七拍子によって、このタイミング……」

軽トラックを運転しているのは、橋本健三（78）。

汚いジャンパーを羽織り、頭には赤いキャップ帽を被っている。

徐行スピードで孝太郎に並走する軽トラ。

健三「運転席から身を乗り出す健三。」

歩き続ける孝太郎。

健三「三三七拍子が続ける健三。」

孝太郎「うちさん」

孝太郎「三三七拍子を見ても、驚く健三。」



	健		健		○		○		○	孝	健	孝	健		孝	健		健	孝	健	孝	健	孝	健	孝	健	孝	健
	て	三	た	三	走		道		メ	太	三	太	三	ん	気	太	三		三	太	三	三	太	三	太	三	太	三
	み	ー	の	ー	る		路		イ	郎	ー	郎	ー	だ	っ	郎	ー		郎	ー	郎	ー	郎	ー	郎	ー	郎	ー
荷	乱	れ	ち	荒	か	俺	助	運	軽	孝	後	走	孝	追	ぽ	ど	孝	健	旅	孝	健	孝	健	孝	健	孝	健	孝
台	暴	ば	よ	っ	？	に	手	転	ト	太	ろ	る	太	い	か	な	か	い	郎	っ	健	健	孝	健	孝	健	孝	健
の	に	：	う	ぽ	ー	一	席	席	ラ	郎	の	荷	郎	か	ら	ら	う	た	っ	健	健	孝	健	孝	健	孝	健	
ネ	右	：	ど	く	ー	言	の	は	ク	の	旅	台	け	ら	ら	こ	め	ト	っ	健	健	孝	健	孝	健	孝	健	
ギ	折	ー	ネ	ハ		相	孝	三	・	行	に	ッ	る	し	旅	に	だ	よ	っ	健	健	孝	健	孝	健	孝	健	
と	す		を	ド		談	太	郎	°	靴	は	ク	い	だ	出	よ	っ	く	め	ん	だ	っ	健	健	孝	健	孝	
旅	行	軽	届	を		無	°		°	°	、	°	な	た	ら	だ	°	降	り	病	気	の	身	で	°	°	°	
行	靴	ト	け	を		く	行	く	っ	收	穫	し	た	ネ	ギ	の	束	と										
が	ラ	ッ	う	と	健	三	°	っ	°	ネ	ギ	の	束	と														
に	ク	°	思	っ	°	っ	°	だ	っ	と																		
す	べ	る	°	寄	っ																							
べ	る	°	っ																									



健三「大上人いそれほ園  
 〇同・園内  
 〇上野 恩賜公園  
 西郷隆盛像。孝太郎「勢い健三！  
 孝太郎「スピート！降ろすんだけ！  
 孝太郎「驚く孝太郎！走り出す軽トラセルを踏む。  
 健三「降りよとたアに手をかけた孝太郎。  
 孝太郎「いつ戻らんのだ？  
 健三「東へ行くつもりだ。  
 孝太郎「どこへ？  
 健三「悪かった。結局送ってもらって」  
 〇駅・改札前  
 健三「ま。軽トラックがロ―タリーに止  
 健三「無茶なことに。そこのまでが勝負だ」  
 また乱暴に軽トラックが道を曲がる。

孝	健	孝			孝		○		○		○	孝	健	孝							
太郎	三郎	今日郎			孝太郎		同・		上野		上野	太郎	三郎	太郎							
健三	「	「	「		「				「		「	「	「	「							
、「	今	が	改	こ	欲	き			「		「	「	「	「							
ム	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
ス	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
ツ	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
と	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
した	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
顔	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
で	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
孝	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
太郎	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
の	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
手	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
を	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							
	「	「	「	「	「	「			「		「	「	「	「							

	孝太郎		○ 特急		○ 同			健三	健三	孝太郎	健三	孝太郎		孝三	健三
健三、ニツと笑う。	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「う、孝太郎、赤い帽子の後ろから、健三の顔
「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔	「が、赤い帽子の後ろから、健三の顔

孝 健 健 ○ ○ 孝 健 孝 健 孝 孝 孝  
太 三 三 同 走 太 三 太 太 太 太 太  
郎 さ ー ー ー ー 郎 郎 郎 の 郎 郎 郎 郎 郎  
健 ー 孝 目 バ う 太 不 ニ て 4 車 特 頭 弁 ー 周 あ す 走 抱 そ の 恐 ー 声 車 座 ー ゆ 発 ー 次 も ー ホ  
三 何 遠 ち で ク め 郎 機 コ 座 人 が ー 急 走 ー 当 何 り ！ 健 り え こ ド る ！ ー 駅 に に だ く の 三 瞬 の ー わ ー  
が で 慮 や 睨 バ え 嫌 ニ る が ー 電 三 出 た に ア 恐 ー 弁 流 深 っ り と ル ー ？ 間 ー ざ ー  
食 お す ん も 孝 と ー 顔 と 太 郎 ポ ー 車 ー 孝 太 郎 三 振 通 っ り 側 の 路 買 れ く た と 動 が 健 こ 車  
べ 前 ん な 食 太 駅 車 弁 ー 車 弁 郎 と 健 三 当 を 車 の っ 揺 て 袋 と 太 郎 量 の お 菓 子 を  
な ま な っ て よ ー 類 張 る 健 三 を 冷 たい ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
が で つ い ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
ら つ て よ ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
話 い ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
そ て 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
う 来 る だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
と る だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
す る だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
の ？ ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
を ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー  
慌 ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー 俺 の 奢 り だ い か ー

○ 同・客室（夜）

○ ビジネスホテルの看板。  
「全スホテルのホテ  
西国チエインの看板」

○ 水戸駅・ホーム（夜）  
「特急から降りる孝太郎と健三」

○ 車窓の風景、田園風景が通り過ぎる。

健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太  
「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」  
に孝い「そ腹見「グさ孝と孝「ぶそとは見分「健う太 やん 三 孝 健 孝  
入太や健うんた：チっ太り太：るう拾い知配心三看を一人話健「て  
れる、ね！次の笑うばす。ち。味は変じだらん  
。や「の停車駅で降りなさい」

健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太  
「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」  
に孝い「そ腹見「グさ孝と孝「ぶそとは見分「健う太 やん 三 孝 健 孝  
入太や健うんた：チっ太り太：るう拾い知配心三看を一人話健「て  
れる、ね！次の笑うばす。ち。味は変じだらん  
。や「の停車駅で降りなさい」

健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太  
「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」  
に孝い「そ腹見「グさ孝と孝「ぶそとは見分「健う太 やん 三 孝 健 孝  
入太や健うんた：チっ太り太：るう拾い知配心三看を一人話健「て  
れる、ね！次の笑うばす。ち。味は変じだらん  
。や「の停車駅で降りなさい」

健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太  
「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」  
に孝い「そ腹見「グさ孝と孝「ぶそとは見分「健う太 やん 三 孝 健 孝  
入太や健うんた：チっ太り太：るう拾い知配心三看を一人話健「て  
れる、ね！次の笑うばす。ち。味は変じだらん  
。や「の停車駅で降りなさい」

健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太 健孝 孝太  
「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」 「三郎」  
に孝い「そ腹見「グさ孝と孝「ぶそとは見分「健う太 やん 三 孝 健 孝  
入太や健うんた：チっ太り太：るう拾い知配心三看を一人話健「て  
れる、ね！次の笑うばす。ち。味は変じだらん  
。や「の停車駅で降りなさい」







○ 桜山公園（茨城県）

孝太郎 アーイ ドルと演歌が響く車内。  
 健三 ひやっほー！ たくないー  
 孝太郎 ぞ！ 騒ぎたくないー  
 健三 たんぞうしー？ せっかくレタカー借り  
 孝太郎 どうしー？ 気兼ねせず楽しく騒げ

孝太郎 を歌いだす健三。  
 孝太郎 それに負けない、一段と大きな声で演歌  
 孝太郎 カーラオから女性アイドルのポ  
 孝太郎 三太郎を見る。うんざりした顔で運転席の健  
 孝太郎 隣から、豪快な鼻歌が聞こえる。  
 孝太郎 フンフン、終わるか、けだな……

健三太郎 げ孝太郎、助手席の窓から桜の木を見上  
 ○ レン タカー車内の窓から桜の木を見上

○ 車道

その脇には走り始めていくレタカー。

○ 同・

その申込書に署、呆れた顔の孝太郎。  
 孝太郎 受付カウンター（朝）  
 孝太郎 健三。

○ レン

東日本レタカー（朝）の看板。

健三太郎

咳き込むおむせたいおむせたい、大丈夫か？  
 咳き込んだ目で、健三。  
 小さん、健三、息をつく孝太郎。ながら、

電孝先を孝反ホ  
 車太に待太郎対対側  
 の郎、っ郎はのム  
 陰、健三のへ、ム  
 で健三に乘る健三立  
 健三の向か電三はつ  
 三の姿がっ車が南孝  
 の見っがやへ向かう  
 姿え片やっかとう電  
 なく手やっかとう電  
 なるを上げてる。車  
 。

○ 同・  
 健三：「当だ。ありがとう」  
 孝太郎：「お前の気が持ち嬉しかったよ。それ」  
 健三：「帰るんだ、孝太郎は避ける。」  
 孝太郎：「うとうと帰るも、孝太郎の手切符を戻そ」  
 健三：「無理なつかない手切符を戻そ」  
 孝太郎：「で帰るんだ付合必要はない。次の」  
 孝太郎：「そうにいやだ、じやないよ。今日だって退」  
 健三：「いやだ、じやないよ。今日だって退」  
 孝太郎：「し出す。帰りなさい」  
 健三：「販売機の前に、孝太郎が健三に切符を差」  
 ○ 駅・  
 隣を覆い、寝ている健三。

○ 同・  
 ベンチで日記帳を書いている孝太郎。

○ 福岡  
 堤防沿いを歩く孝太郎の後ろを歩く健三。

花見客で、ぎわう園内。孝太郎と健三の姿。

孝太郎「……」

走り出す電車。誰もいなくなつたホーム。

孝太郎「……」  
少し、寂しそうな顔の孝太郎。

○走る  
電車（夕）  
田園風景の中を走っていく。

○同・車内（夕）  
四人がけのボックス席に一人で座って

いる孝太郎。孝太郎の人はまばら。孝太郎の顔に西日が差す。

眩しそうに目を細める孝太郎。電車の揺れに次第に瞼が降りてくる。その時、後ろの座席からいびきが聞こえてくる。

孝太郎「……」  
おそのおその、後ろの座席を覗き込む。自分の背中越しの席に座っている人間

の頭が見える。その人物は赤いキャップ帽を被って

孝太郎「……」  
日が暮れていく。

○旅館・全景（夜）  
「福島県・郡山市」のテロップ。

小さな旅館。孝太郎と健三。入つていく。

○同・フロント（夜）  
女将が出てくる。

女将「……」  
先ほどお電話頂いた西澤様ですね？

女将「……」  
孝太郎の旅行鞆をしようと手を

伸ばす。

女将「孝太郎、その所作に見惚れる。」

孝太郎「あ、ああ。」

女将「女将の手が孝太郎の手に重なる。」

女将「さ、こちへどうぞ。」

旅行鞆を手に楚々とした足取りで歩いていく女将。

その後ろ姿を見つめる孝太郎。

○同・部屋（夜）

女将「本日は当館にご宿泊頂き、誠にありがとうございます。」

孝太郎「は、お申し付けくださいませ。」

健三「孝太郎も深々と頭を下げる。」

○同・入浴場（夜）

風呂に入っている孝太郎と健三。

健三「口笛を吹きながら温泉に浸かっている。」

孝太郎「先に上がる。」

○同・脱衣所（夜）

浴衣に着替える孝太郎。

鏡の前でヒゲの剃り残しがないか入念にチェックしている。

○同・部屋（夜）

夕食の御膳が並んでいる。

健三「食べ始めると健三。」





孝太郎「なんだ、味噌汁をすすりながら孝太郎を

健三「見る。味汁のまい？」

孝太郎「聞いてよ、なんだその態……！」

女将「失礼、たす、真顔に戻る。」

孝太郎「澄ました顔で黙々と漬物を食べる孝太

郎。そんな孝太郎を面白そうに見ている健

三。女将、お茶を置いて出て行く。黙々と食べる孝太郎と健三。

○郡山市

桜を眺めている孝太郎。健三はいない。ひと静かに桜を見つめる孝太郎。

持つてきた『山家集』を開く。ペー|ジを眺めている。赤いキャップ帽をかぶった健三がやっ

て来る。孝太郎「お待たせ。」

健三「お待たせ。」健三「何だったんだ？」

孝太郎「野暮用だよ。」孝太郎「なに、そんなに気になる俺のこと

孝太郎「いや、全然。」孝太郎「立ち上がって歩き出す。」



○旅館・ロビー（夕）

孝太郎と健三が戻ってくる。  
女将が二人に気づいて、笑顔で寄って

女将「お帰りなさいませ。お疲れではないで

孝太郎「いや、ぜんぜ……」

健三「疲れた！」「健三を小突く。

女将「それでしたら、お部屋にマッサージに

女将「それでしたら、お部屋にマッサージに

女将「それでしたら、お部屋にマッサージに

女将「それでしたら、お部屋にマッサージに

健三「よろしく！」「微笑む女将。

孝太郎「……」

○同・部屋（夕）

健三は競馬新聞を読んでいる。  
孝太郎、洗面所に入る。

○同・洗面所（夕）

孝太郎「……」

○同・部屋（夕）

慌てて飛び出して、笑顔を作ったドアを開け  
る。

マッサ「ドアの前に立っていたのは、中年男性。

マッサ「中年のマッサージ師がにこやかな笑顔

孝太郎「……」

○同・脱衣所（夜）

温泉から上がってきた孝太郎が着替え



女将「孝太郎、言葉を探している。」

孝太郎「笑顔でドアを閉める女将。」

孝太郎「パターン、とドアが静かに閉まる。」

孝太郎「サイドテーブルの上に、さっき孝太郎

孝太郎「孝太郎、そつと写真立てを手取る。」

孝太郎「孝太郎、写真の中の幸子に頭を下げる。」

孝太郎「孝太郎、写真の中の妻。」

○ コンビニ（夜）  
R18 雑誌コーナーで袋とじを見よう

×として、健三。×

× ビニール袋を下げて出てくる健三。

袋からタバコを取り出し、火を点ける。

煙を吸い込む。咳をする。

○ 旅館・部屋（夜）  
音を立てないように入ってくる健三。

孝太郎「健三、寝ている孝太郎を覗き込む。」

健三「いいの？」

健三「寝返りをうつ孝太郎。」

○ 同・玄関（朝）  
旅行鞆を出てくる孝太郎と健三。

二人の後ろで、女将が深々とお辞儀を

して見送っている。

健三、赤いキャップ帽を女将に向かっ

て振る。

○ 走る電車（朝）  
朝日に照らされて、光る車体。

健三「イヤだ、サボりか？」  
 理沙「同じ学校なんだろ？」  
 孝太郎「君の仲たち、今の駅で降りてた」  
 健三「何だ！ ムッとした顔。」  
 理沙「おじさん、外す理沙。」  
 健三「あ、さあ。このつは遅刻だな」  
 健三「て、しま。電車のドアが閉まり、発車し  
 健三「理沙、相変わらな、反がな、いのか？」  
 健三「お、い！ みな、こ、こ、降、り、ぞ。」  
 健三「イヤホン、降、り、ない、か？」  
 健三「あ、ん、つ、降、り、ない、か？」  
 健三「気、に、し、つ、降、り、ない、か？」  
 孝太郎「座、団、××、駅、に、停、車、し、た、時、そ、の、高、校、生、の、集  
 孝太郎「発、車、の、ベ、ル、が、鳴、る、理、沙、の、声、は、か、け、な、い、の、か？」  
 ○ 駅  
 ○ 走る  
 孝太郎「電車・車内（朝）  
 健三「が、並、ん、で、座、っ、て、い、る。」  
 電車「が、止、ま、り、た、ア、が、開、く。」  
 通学「の、高、校、生、た、ち、が、大、勢、乗、っ、て、く、る。」  
 みん「な、同、じ、制、服、を、着、て、い、る。」  
 その「中、の、一、人、若、見、理、沙、（「」）が、孝、太、郎、と、健、三、の、向、か、い、に、座、る。」  
 他「の、高、校、生、は、友、達、同、士、で、楽、し、そ、う、に、話、し、て、い、る。」  
 ひ「と、り、ぼ、つ、ち、の、理、沙、イヤ、ホンを、した、ま、ま、ジ、ツ、と、車、窓、を、眺、め、て、い、る。」  
 ××「駅、に、停、車、し、た、時、そ、の、高、校、生、の、集、団、が、降、り、て、い、く。」  
 座「た、ま、ま、降、り、な、い、理、沙。」  
 孝太郎「座、団、が、降、り、な、い、理、沙。」



○蕎麦屋・店内で蕎麦をすする孝太郎、  
 健三「待て！飛び出す。被っていた赤いキャツ  
 健三「強風が！健三の被っていた赤いキャツ  
 健三「あっ！見ている孝太郎。ところから微笑ま  
 健三「口げんなかを始める健三と理沙。微笑ま  
 健三「生意気言っただけであっ。もう結構生きた  
 理沙「お前は生きてきたなあ、生きるのうが！  
 理沙「私も飽きたなあ、生きるのうが！  
 孝太郎「みんなどんな写真も撮っている。  
 孝太郎「飽きてる枝を揺らす。滝桜も。  
 孝太郎「千年の桜、何年かたいた。生きてるんだろ  
 孝太郎「風が吹くと、死にたい。花びら。  
 孝太郎「孝太郎、滝桜を見上げる。  
 ○滝桜の下、孝太郎、滝桜を見上げる。



理	孝	理	孝	健	孝	健	理	孝	理	○		○	孝	健	孝	孝	健									
も	沙	こ	太	沙	太	た	三	た	究	太	三	沙	太	沙	太	が	三	太	孝	健	孝	太	い	三		
ん	を	「	そ	郎	「	郎	「	こ	し	郎	「	「	郎	「		走		夜								
な	捨	授	こ	「	そ	孝	「	ち	と	て	「	そ	芭	「	ね	目	そ	る	孝	レ	窓	カ	そ	ど	森	
自	て	業	で	富	の	太	郎	る	な	も	た	私	う	蕉	そ	え	を	の	。太	ン	か	「	中	ま	園	
分	て	で	す	も	西	郎	「	み	あ	ん	は	そ	う	か	だ	お	ま	向	。郎	タ	ら	。孝	を	で	「	
勝	出	や	べ	若	行	「	健	い	「	。行	「	？	。古	さ	た	に	こ	じ	し	う	桜	「	孝	太	郎	
手	な	し	た	を	も	て	三	ぞ		自	西	法	芭	「	古	さ	た	に	。郎	「	の	・	郎	「	福	
男	の	ん	も	捨	あ	の	小	「	費	行	師	蕉	「	と	つ	が	る	広	。郎	ト	車	が	手	を	「	
ど	じ	。確	出	た	何	突	版	「	出	に	が	！	「	か	て	が	る	が	。郎	ン	内	を	出	す	。孝	
こ	や	な	か	家	に	好	で	「	版	い	き	「	詩	歌	を	だ	開	空	。郎	ネ	ル	を	出	す	。孝	
い	か	奥	し	「	き	「	全	「	然	の	ね	「	を	だ	開	空	。郎	を	見	上	げ	て	い	。孝	「	
い	っ	さ	た	二	な	「	売	「	本	。本	を	「	と	つ	が	る	。郎	を	上	げ	て	い	。孝	「	。孝	
の	た	ん	ん	十	の	「	れ	「	を	「	出	「	と	つ	が	る	。郎	を	上	げ	て	い	。孝	「	。孝	
？	「	ど	「	そ	「	「	な	「	か	「	っ	「	と	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「
「							っ		し	研																











○		○	フ	健	フ	○	○	健	孝	健	健	健	健	孝	健
同		同	ロ	三	ロ	同	駅	三	太	三	三	三	三	太	三
・		・	ン	ン	ン	・	前	「	郎	「	「	「	「	郎	「
ハ	健	廊	ト	サ	健	フ	外	仕	「	病	答	大	孝	孝	あ
部	三	下	ス	タ	を	無	の	あ	駅	院	え	丈	太	ち	絶
屋	、	孝	タ	キ	支	の	ラ	健	「	振	な	夫	郎	や	、
ト	思	太	ツ	ユ	の	情	は	一	首	る	い	か	に	ん	知
柄	わ	郎	フ	！	姿	の	メ	点	入	く	か	？	！	、	ら
の	ず	を	「	「	が	は	ル	で	の	孝	孝	「	膝	？	う
壁	口	引	「	「	ら	、	テ	視	桜	太	太	「	を	「	そ
紙	笛	き	「	「	、	シ	ル	線	「	郎	郎	「	つ	突	う
に	を	ず	「	「	部	な	ヘ	を	強	。	。	「	い	然	だ
キ	鳴	る	「	「	屋	だ	ン	回	風	散	、	て	、	手	ろ
ン	ら	よ	「	「	の	れ	ぽ	す	で	る	桜	苦	し	席	そ
グ	す	う	「	「	力	か	い	。	ら	が	「	し	そ	に	れ
サイ	。	に	「	「	ギ	か	が	。	、	「	「	し	う	乗	！
ズ		歩	「	「	を	っ	、	。	寂	「	「	し	に	り	「
の		い	「	「	受	た	、	。	れ	「	「	し	息	込	「
ベ		て	「	「	け	孝	寂	。	て	「	「	し	を	も	「
ッ		い	「	「	取	郎	い		い	「	「	し	し	う	「
			「	「	る		る			「	「	し	し	と	「





健	孝	健	孝	○	フ	健	フ	健	○	○	孝	○
三	今	太	三	桜	ロ	三	ロ	三	同	同	太	ラ
一	年	い	一	の	ン	一	ン	一	・	・	郎	ブ
そ	わ	の	一	き	ト	健	世	チ	孝	昨	表	そ
う	か	春	だ	れ	ス	三	話	エ	太	日	情	る
言	っ	を	も	い	タ	、	に	ツ	郎	は	の	に
っ	た	追	な	な	ッ	フ	な	ク	も	あ	ま	に
て	よ	い	ぬ	公	握	ン	た	ア	一	深	り	ま
笑	。か	る	私	園	一	ス	ウ	一	々	が	二	い
う	お	け	か	い	ま	タ	ト	そ	と	と	人	た
健	三	し	い	健	た	ス	の	れ	お	う	に	フ
三	。ま	か	後	三	ン	タ	手	は	辞	。会	口	一
。ま	す	は	か	。三	ゴ	ッ	続	儀	を	陰	す	ト
よ	一	別	で	。三	リ	フ	き	何	を	す	で	ス
一		に	春	。三	タ	に	を	よ	り	。助	。タ	タ
		し	を	。三	ッ	手	を	す	る	。か	ッ	フ
		て	追	。三	フ	を	差	健	す	。一	、	無
		も	い	。三	。三	し	出	三	。一	。無	く	く
		、	け	。三	。三			。一	。無	く	く	く



健三「ハッ」と息を呑む孝太郎。「な？」  
 孝太郎「テッレビを指さす健三。」「  
 健三「目を見開いて、テレビ画面を凝視し  
 健三「いる。」「  
 健三「大丈夫か？」「  
 健三「健三、酔いながら、しきり  
 〇同・客室（夜）  
 健三「なまんだ、あいつ」  
 孝太郎「男館内は禁煙です。よと睨みして、その  
 〇同・エレベーター（夜）  
 孝太郎「健三、自分たちの部屋に向か  
 〇同・廊下（夜）  
 〇ビジネスホテル（夜）  
 孝太郎も笑う。

健 孝 健 孝 健 孝 ○  
 三 ン 太 ド 三 太 て 三 太 旅 館  
 「 は 郎 オ 「 明 う 「 孝 俺 「 健 ビ ・ 客 室  
 そ 孝 へ 玉 「 ニ 日 つ な ち も 「 三 「 ル 室  
 の 太 ？ ね セ オ 日 つ な ち も 「 三 「 ル 室  
 ま 郎 「 ぎ カ ン 、 、 いて ん か 「 恐 持  
 ま 笑 思 だ 「 ド や 病 院 頭 抱 え る 孝 太 郎 の 顔 を 見 る 。  
 い わ ず 吹 き 出 す と 健 三 。  
 オ ニ オ

ア  
 ナ ウ ン サ 「 が ニ ュ 「 ス を 読 み 上 げ る 。 ア ナ ウ  
 映 像 は ス タ ジ オ に 切 り 換 わ り 、 ア ナ ウ  
 の 姿 が チ ラ ッ ト と 映 る 。 乗 せ ら れ る 大 藪  
 続 い て 、 大 藪 医 院 の 外 観 が 映 っ て い る 。  
 る が 、 大 藪 医 院 の 外 観 が 映 っ て い る 。  
 周 辺 に 少 し モ ザ イ ク が 映 っ て い る 。  
 テ レ ビ 画 面  
 誤 診 や 相 次 ぐ 医 療 ミ ス が 続 き 、 病 院 関 係 者  
 を 調 査 し た と ころ 、 この 病 院 の 医 院 長 で あ  
 る 大 藪 安 男 氏 の 息 子 、 大 藪 克 哉 容 疑 者 、 四  
 十 六 歳 が 医 師 免 許 を 持 っ て い た こ と が 判 明 し ま し  
 た 。 日 常 的 に カ ル テ の 取 り 違 い 等 の ミ ス や 、  
 誤 診 が 起 き て い た も の と み て 、 本 日 、 業 務  
 停 止 命 令 が 出 さ れ ま し た 。 続 い て の ニ ュ 「  
 ス で す こ で 「 画 面 が 消 え る 。

○ テ レ ビ 画 面  
 孝 太 郎 「 旅 孝 太 郎 「  
 食 「 そ の 目 的 「 驚 きの あ ま り 言 葉 が 出 ない 。  
 入 る よ う に テ レ ビ を 見 る 2 人 。



○ 同・東京都内（回想・深夜）  
 健三「うん！」  
 孝太郎「よし、なら行くぞ」  
 健三「やだ！」「蒸されたいのか？」  
 孝太郎「まだ泣いていくぞ！」「手を引張る。」  
 健三「泣いてやる。」「健三！」「走って防空壕に飛び込」  
 孝太郎「炎が防空壕に迫る。」「動けない健三。」  
 健三「隠れている防空壕のすぐ近くに落ちる。」  
 健三「ま、ヒユヒユと泣いている。」「音が聞こえ、健三の」  
 健三「え、上がる。」「音ととも、激しく燃」  
 健三「ド、ン！」「音が絶えず聞こえている。」  
 健三「ヒユヒユと泣いている。」「健三（８）。」  
 健三「防空壕の中で震えている。」「健三（８）。」  
 健三「民家（回想・未明）」  
 ○ 東京  
 健三「下町（回想・昭和二十年）」  
 健三「夜、昭和二十年三月十日未明」  
 健三「焼夷弾で町が燃えている。」「炎。」  
 健三「孝太郎の耳にも、ヒユヒユという落下音」  
 健三「な、あ、聞こえないか？」  
 健三「孝太郎の耳にも、ヒユヒユという落下音」  
 健三「館内は薄暗く、非常口の緑色だけが」

	孝	健	消	健	○	孝	健	孝	孝	健	孝	健	○	孝	健
	太	三	防	三	同	太	三	太	太	三	太	三	ビ	太	三
	郎	一	士	一	・	郎	一	郎	郎	一	郎	一	ジ	郎	一
る	わ	健	姿	深	動	孝	助	脱	非						
。え	エ	な	が	夜	を	太	か	出	常						
た	レ	あ	あ	に	し	郎	っ	す	口						
男	！	の	あ	内	て	も	た	る	（						
が	一	指	。わ	全	い	息	：	孝	深						
警	一	差	。ち	員	る	の	切	！	太						
察	で	先	。を	退	消	防	ら	一	と						
か	す	を	。あ	完	車	が	し	て	健						
ら	れ	見	。い	了	が	到	い	る	三						
事	違	る	。孝	さ	し	着	し	。	。						
情	っ	孝	太	！	ま	し	。								
を	た	太	郎	一	の	野	次	！							
聞	タ	郎	。	の	野	次	！	馬							
か	バ			の	馬	の									
れ	コ														
て	を														
い	く														

○ 大学病院・外観総合病院。

健三 孝太郎  
「どこへ？」  
「行くか」

孝太郎が立ち上がる。  
× オレシジュースをすすっている健三。  
× コーヒーを飲むでいる孝太郎。

健三 孝太郎  
「最高だ」  
「美味い」  
「焼きを頼張る。」  
「美味い」  
「運ぶ。」  
「そう、お腹がすいたな」

孝太郎  
「が死にかけた」  
「さ、お腹がすいたな」

健三  
「あんな」  
「桜の下で優雅に死ぬのはだめなんだよ、」

健三 孝太郎  
「え、かっ死んでたら、こっとうして朝飯」  
「も、あんな」  
「かっ死んでたら、こっとうして朝飯」

○ フォア  
ミリス  
グメント  
ユニ  
を注文する孝太郎

孝太郎  
「遠ざかる」  
「パトカーに乗り、連行されて」  
「い」  
「か」  
「パトカーに乗り、連行されて」

孝	健	孝	健	○			健	健	孝	健	孝		健	○	健	○
添	太	し	三	太	○	同	や	三	三	太	三	太	三	同	三	同
っ	郎	討	ー	郎	院	・	ん	ー	ー	郎	ー	郎	ー	・	ー	・
て	ー	ち	付	ー	健	孝	つ	孝	や	ー	い	ー	診	待	合	診
も	だ	だ	き	悪	三	太	か	太	っ	：	や	：	心	そ	い	診
ら	ま	！	添	か	や	郎	ん	郎	ぱ	：	：	ー	配	わ	つ	察
っ	た	ー	い	っ	ん	と	り	で	ー	：	：	ー	そ	そ	来	の
た	た	ん	な	た	ん	健	付	座	ー	：	：	ー	う	わ	て	順
だ	け	じ	な	ん	よ	三	き	ら	俺	も	っ	ー	に	と	も	番
け	だ	や	嘘	じ	た	い	添	せ	は	っ	て	ー	隣	ち	院	を
ー	な	い	じ	や	！	ろ	っ	る	が	っ	て	結	座	か	嫌	の
			や	な	ー	い	ほ	名	何	構	来	の	る	な	い	な
			い	か	っ	る	し	前	企	来	る	か	健	様	一	子
			い	か	っ	る	い	が	ん	の	か	？	三	の	の	健
			い	か	っ	る	なん	呼	ん	腕			孝	三	。	
			い	か	っ	る	て	ば	で	を			太	三	。	
			い	か	っ	る	っ	れ	る	腕						
			い	か	っ	る	て	る	。							
			い	か	っ	る	っ	る	。							
			い	か	っ	る	っ	る	。							
			い	か	っ	る	っ	る	。							











孝太郎 孝太郎 孝太郎 ○同・廊下（朝）  
 しつこく泣きそうになる孝太郎  
 連続して泣きそうになる孝太郎  
 隣の部屋をノックする孝太郎  
 ○同・孝太郎の部屋（朝）  
 孝太郎も自分の部屋に入る。た  
 孝太郎は、部屋に入り、帽子を  
 健三郎は、部屋に入り、帽子を  
 孝太郎は、部屋に入り、帽子を  
 ○同・廊下（夜）  
 孝太郎は、部屋に入り、帽子を  
 ○ビジネスホテル（夜）  
 助手席の健康三郎は、咳き  
 ○同・車内  
 孝太郎は、車内  
 ○走る  
 孝太郎は、車内  
 書類にサインしている孝太郎。





孝直 孝直 孝直 ○ 直孝 ○ 美孝 美 孝 美 美  
 太郎 也 太郎 北 也 太 乃 太 乃 太 乃 乃  
 郎 郎 郎 海 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎  
 孝直 桜孝 孝 写じスマ 舞枝延 孝直 ○ 直孝 ○ 美孝 美 孝 美 美  
 太郎 にも 太郎 真とマジ 舞枝延 太郎 也 太 乃 太 乃 太 乃 乃  
 、緒に 背郎 真とマジ 舞枝延 太郎 也 太 乃 太 乃 太 乃 乃  
 赤い けい 赤い だ。 撮らな 花びら。 桜を見つめて いる孝太郎と直也。  
 キヤッ 歩 歩 出  
 ッ 出  
 プ 出  
 を 出  
 深 出  
 く 出  
 か 出  
 ぶり 出  
 直 出

孝太郎「す。孝太郎も、一緒に」  
桜の木。たちを見送るように、枝を振る

【完】

「引用」  
願はくは花の下にて春しなむ  
望月のころ」  
西行法師

【二〇〇字詰め換算…二一二枚】